

稲毛海浜公園自然観察会

冬こそ探そう！公園の鳥たち

山口正明（船橋市）

日 時：2022年2月19日（土）10:00~12:00 曇り

場 所：稲毛海浜公園（主催：千葉市美浜公園緑地事務所、協力：当会）

参加者：22名（大人20名、子ども2名）

担当指導員：中田、田島、山口 事務局：伊藤 協力：中田智貴氏

「鳥がどれだけ出てくれるかなー？」池と海があるのは良いのですが、林はほとんど常緑樹で、案内する私たちとしては心配でした。下見もそうでしたが、当日朝直前歩いた状況からなおさら不安が増加。ということで、参加者に「資料に載っている鳥の半分ぐらい見られると良いかな。」と予防線(?)を張った上で「参加者全員で、目と耳で探して教え合いましょう」と声掛けし2班に分かれて出発。



曇りでしたが風もなく、結果としては、カンムリカイツブリ、カワウ、オナガガモ、ヒドリガモ、スズガモ、セグロカモメ、ユリカモメ、ミュビシギ、キジバト、ドバト、コゲラ（声のみ）、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、シジュウカラ、エナガ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラスの19種を見られました。まずまずの種数かなとホッとしました。



オナガガモ

鳥の見分け方のポイントに加えて、当会の観察会らしく(?)、鳥たちの生態をわかる範囲で以下説明。

- ・水面で餌を採るカモと潜って餌を採るカモの違い（餌の種類、足の位置や水かき、飛び立ち方）
- ・保温（正羽と綿毛、足、嘴）と防水（尾脂腺、カモとカワウの違い）
- ・固い餌を丸のみしても大丈夫な内臓・消化の仕組み
- ・冬鳥の一年のサイクル（どこからどこへ、いつ、どれくらいかけて、つがい、繁殖、換羽など）

「近所のここの散歩がもっと楽しくなりそう」「写真やボードを使った説明がわかりやすかった」「体の仕組みは自宅のインコと比較して興味深かった」「冬鳥と留鳥の違いがあることがわかった」など、参加者から感想をいただきました。

今回、予定の指導員の方が参加できなくなり田島さんにピンチヒッターをお願いし助かりました。また、中田さんのご子息の智貴氏が案内の協力をしてくれました。鳥の識別や生態に詳しく、はるか海の先のカンムリカイツブリも見つけてくれました。（多謝）



ユリカモメ